

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さくらおか
所在地 (県・市町村名)	登米市 米山町
記入者名 (計画作成担当者)	千葉 由香
記入日	平成20年7月31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・運営方針に「地域の一員として」という文がもりこまれている。 また、事業所の理念を玄関先に掲示し、来所された方が見れるようにしている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・毎月実施する職員会議で、理念に触れながら話し合いの場を設けている。 ・常に見える場所に理念を掲示している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・事業所の理念を玄関先に掲示し、来所された方が見れるようにしている。 ・暮らしの様子を毎月写真に収め、家族等に郵送している。</p>	○ 地域の方に、もっと事業所を知ってもらえるよう、催しものを行い参加していただけるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・事業所内の畑と近隣の畑が隣接されており、挨拶や野菜などの話題を取り入れ話の機会を持つようにしている。 ・近所を散歩する際、挨拶を行うようにしている。</p>	○ 近隣の方に気軽に来てもらえるよう、催しものを行い参加していただき関係性を強めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・地区の防災訓練に参加し、選挙や図書館利用のため、公民館へ出向くようにしている。</p>	○ 入居者の方が参加できる催し物に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・取り組みが弱い</p>	○	<p>事業所を拠点に、認知症の知識や介護講座等を開催し、地域に貢献できるような位置付けを目指していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・自己評価をすることで、振り返りの場面で皆で話し合い、サービスの質の向上につなげていけるよう努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・頂いた意見は真摯に受け止め、職員会議の場で話し合い、共通認識の下、サービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・疑問等が生じた際は、市や関係機関の担当者に相談し、適切な指示を仰ぐようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・外部研修に参加し、新しい情報を取り入れ、学ぶ機会を設けている。 ・職員会議の際、勉強会を持っている。 ・いつでもハンドブックが閲覧できるように用意している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・外部研修や機関誌等で学んだこと等を、職員会議の時間を使い学びの場としている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の前、十分話し合いを持つようにしている。 ・契約時は、十分な説明と疑問点は無いか伺っている。 ・疑問等があった場合、いつでも対応できるようにしている。(窓口を設け、電話等で対応している) 		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に相談箱(苦情箱)を設置している。 ・生活の場面で、一対一の対話の時間を設けるようにし、意見をいただくようにしている。 ・意見を頂いた場合、管理者を中心に検討し、改善につなげている。 		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、生活の様子を写真及び書面にて送付している。 ・定期的に広報誌を作成し報告している。 ・健康状態等は、必要に応じて、電話で報告をしている。 ・毎月、小遣いの出納帳のコピーや領収書を送付している。 		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談箱(苦情箱)を設置している。また、施設外窓口の連絡先を掲示している。 ・相談があった際は、14日以内に解決策を講じるようにしている。 		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、管理者と職員が集まり意見を話せる場を設けている。 ・必要に応じて、管理者に話せるようにしている。 		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期通院等で、家族が困難な場合は、必要に応じて勤務を調整し対応できるようにしている。 		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・離職者ができるとわかった時点で、職業安定書に募集依頼し、欠員が生じないよう努めている。 ・担当制を取り入れ、入居者と職員の相性を見極め、安心して過ごしていただけるよう配慮している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個別に研修計画をたて、外部研修等の参加を進めている。 ・外部研修参加後は施設内で、研修内容の伝達会を開催している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修等において、同業者と交流する機会を設けている。	○ ・9月に他施設へ職員の交換研修を予定している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・勤務表を作成する際、職員のバランスを考慮し作成している。(新任職員と中堅職員が組めるよう) ・勤務表を作成する際、2個の希望を取り入れ、働きやすい環境作りに配慮している。	○ ・職員が均等に有給休暇を利用し、リフレッシュする機会を設、気持ちに余裕をもって勤められるようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職能給及び面談制度を導入している。(正規職員のみ)	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・できるだけ本人の思いに沿った支援ができるよう、入居前後に話し合う場面を設け、本人の気持ちを受け止められるようにしている。	家族の意向で入居される場合が多く、その場合、本人の不安を軽減できるよう努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・管理者や計画作成担当者を窓口相談事は、可能な限り対応している。 ・必要に応じて、他のサービス機関と連絡をとり支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた際、本人・家族とよく話し合うようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に、併設のショートステイを利用されていることが多く、その間、入居者や職員が訪問し関係作りに配慮している。 ・事前に、自宅等に出向いたり、来所し雰囲気を感じていただけるよう話し合いをもち、入居日を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は本人と一緒に過ごすことで、共感できるようにしている。 ・生活の場面で、活躍の場面を設けられるよう配慮し、職員が学ばせていただけるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族と情報が共有できるよう、来所時や電話等で様子を報告し、本人の意向や思考等を把握できるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人の申し出があれば、本人の意思を家族に伝えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・住み慣れた場所や、希望の場所へ出向き、馴染みの関係を継続できるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者同士の関係が把握できていると思う。 ・事前にトラブルの無いよう位置関係等に配慮している。 ・そのような傾向があるときは、職員間で注意し対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・要望があった際は、継続的な支援を続けていきますが、現在ははない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の言葉や様子などで、思いや意向を記録に留め把握につなげている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人、家族等に入居前のアセスメントを行っている。 ・入居後は本人や家族等から様子を伺い、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・生活記録の24時間シートを使い、様子を記すことで把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・面会時や電話で介護計画の見直前に要望を伺い反映させている。 ・本人との日頃の会話の中で要望を伺うようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・状況に応じて、(体調等の変化が生じた場合等)医師や栄養士等の意見を取り入れ新たなものを作成している。 ・毎月、状態をまとめ(所見)介護計画作成に反映させている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人の生活記録の他、ポイントや気づきなどを連絡ノートに記し、情報の共有に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の希望を第一に考え、希望に添えるよう対応している(通院・買い物・外出等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域にある公民館へ出向き、図書館を利用している。		要望があれば、情報を集め、他の機関と協力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・自宅復帰に向け、必要に応じて相談やアドバイスを頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・現在、要望は無いが、必要に応じて相談をし、総合的にケアマネジメントを行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医師、協力病院の受診については、本人と家族の意向を第一に、連携をとり指示を頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・かかりつけの医師とは、状態の変化等を伝え、対応の指示をもらえる関係ではあるが、専門医との連携はない。	○	専門医との連携を図っていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・週に1回、看護職員が来所し様子をみている。 ・異常時は、法人内の看護職員とも連携をとれる体制で支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時は、状態確認の為、週に1回以上面会に行っている。 ・面会時、看護師より、入院中の様子や退院に向けての指示を仰ぐようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人、家族の希望を伺っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・本人と家族の希望を汲み取り、職員研修会等の準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・家族の希望で異動したケースがあるが、その際も家族の申し出と希望を尊重した対応をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人記録は、保管場所を決めている。 ・言葉かけ、接し方に関しては、丁寧な対応を心がけ、本人のプライバシーを保護するようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・本人に選択してもらえるような問いかけを行い、自己の決定の働きかけを行っている。	自ら、希望や想いを申し出ただけのような、環境作りや働きかけを行っていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの生活のペースを考えながら、支援するようにしている。	本人のペースを大切にしながら、希望に沿える支援を心がけていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・化粧品や衣類など、本人と一緒に買いにいこうとしている。 ・理容は本人が希望する店に行けるようにし、月に一度調髪日があるので調髪の希望を聞いている。	いつまでも、身だしなみに気を配ってもらえるよう支援していききたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一緒に買い物や、食事の準備を行い、片付けも利用者と共にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・本人の好きなものを購入したり、メニューに取り入れるようにしている。	嗜好品は日常の楽しみにもつながるので、一人ひとりの好みを把握し、提供するようしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・オムツ使用者はおらず、トイレ支援が必要な方に関しては、個人の排泄パターンに合わせ、トイレの案内等の支援を行っている。		今後も、パット類は安易に使用せず、一人ひとりの力に合わせた支援方法を考えケアにあたっていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・一人ひとりに声がけを行い、希望やタイミングをうかがい、入浴するようにしている。入浴は1対1のふれあいを大切にしている。	○	なかなか入浴を希望されない利用者もおおり、入浴が楽しいものになるよう希望があれば温泉等にもお誘いしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・休息など、本人の休みたい時にとっていただくようにしている。		気持ちよく休めるよう、本人のペースを大切にしながらも、日中の過ごし方として適度に体を動かしていただくよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・その人のできる事や力を活かし、役割として行ってもらっている(草取り、食事の準備等)。 ・ドライブや買い物等で気晴らしができるよう支援している。		役割がいつも決まった利用者には偏ることのないよう、配慮していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で金銭を管理している方もいる。 ・事業者側で管理している方は、買い物の時など使いたい時に使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・できるだけ本人の希望に沿った対応(散歩、買い物、外泊等)をしている。 ・直ぐに対応が難しい場合は、代替案をお伝えし、対応している。	○	全ての対応は難しい場合があるが、外出は気晴らしにもなる為、できる限り対応するようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族との旅行は行っていない。 ・利用者数名で、日帰りで観光地などへ出かけている。	○	家族とのつながりを大切にし、施設での催し物に参加していただけるような機会を設けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙を出したい方の希望は対応している。 ・電話は、希望があれば対応し、家族からの電話も取り次いでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問があった時は、好きな場所を利用してもらい、飲み物を用意し、ゆっくりすごしていただけるよう配慮している。 ・さくらおかで、どのように過ごしているか写真を毎月送っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はなく見守りで対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・薬品がある部屋以外は、基本的に施錠は行っていない。		利用者や家族が不快に感じる事がないように努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・入室の際は必ずノックをして声をかけている。		プライバシーの配慮に努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・植木バサミやカマ等は、施設で預かり必要な時のみ本人に渡している。		本人にも納得してもらい、快く使用できるよう配慮する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故防止は常に心がけ、研修などに参加し、意識を高めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・利用者の急変や事故発生時に備え、適切な対応ができるように訓練は定期的に行っている。	○	訓練は定期的に行っているが、実際に急変や事故が発生した時に実践できるようシュミレーション等行い、確実に対応できる力を身につける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域で行われた防災訓練などには参加している。 ・地元消防団長に協力をお願いしている。	○	災害時は地域の方に協力をいただけるよう関係を構築したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・夜間、職員の手薄になる時間に、急変や転倒の危険がある利用者は、事前に家族と相談し、対応や理解を得るようにしている。		職員の技術の向上と事故を事前に防ぐための環境を整えたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・その都度、口頭伝達、記録の記入、勤務交代時の申し送り等で、情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受薬の都度、職員間で申し送りをし、確認している。 ・服薬後の症状の変化についても情報を共有し、家族や主治医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分摂取量の調整、適度な運動、下剤の調整、繊維質の物を食事のメニューに取り入れる等して便秘の予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・一人ひとりに適した声かけや一部介助を行い、口腔ケアを心がけている。 ・口腔内の状態によっては、家族と相談し歯科受診につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分摂取量に応じて、午前、午後のおやつ等で調整している。		排尿を心配して、水分を摂ろうとしない方もいるので、不安を軽減できるよう支援方法を工夫し、安心して摂取していただけるようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザ [※] の予防接種は全員行っている。 ・大きな感染症は今までに発症していないが、風邪などの時は居室で食事を摂っていただくよう対応している。	○	日々の状態を観察し、異常の早期発見対応を心がけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食器類は、使用した都度、洗浄し高温の食器乾燥機に入れ、殺菌している。 ・まな板、スポンジ、包丁は夜、消毒している。	○	衛生管理の徹底を心がける。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先、玄関にベンチや椅子、テーブルを設置している。 ・庭には、季節を感じられるよう花など植物を植え、育てている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・花や写真、壁画等で季節感を取り入れるよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・特に工夫はしていないが、入居者間で居室を訪問しあったり好みの場所で休まれている。		娯楽室(和室)を有効活用していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・安心して過ごせる環境作りを入居の際にお願いし、使い慣れたものや好みのものを持ってきていただくようにしている。	○	家族にお願いするだけでなく、職員と利用者が一緒に手作りの装飾を工夫したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・悪天候以外はなるべく部屋や食堂の窓を開けている。 ・冬季は暖房を22度に設定し、こまめに換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室にトイレ、洗面台があるため、各自のペースで排泄、洗面、整容が行われている。		手すりの位置が個人によって使いにくいので、工夫をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室を、今までの生活空間に近づけられるよう、使い慣れた家具等を持ち込んでいただいている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭に花を植えたり、畑を作ったりしている。 ・草取りや畑の手入れなど利用者が自発的に作業を行っている。 ・利用者が野菜の収穫を行い、楽しみながら作業を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・週に2回から3回、利用者と共に、地元のスーパーへ食材の購入にでかけています。できる限り、地域に根ざした事業所であるため、地元のものを活用し、理解を求めていけるよう取り組んでおります。
- ・季節や旬のものを見て、食べて感じていただけるよう、食事のメニューに活かしております。
- ・外出の機会を多くし、気分転換が図れ楽しみにつながるよう力をいれています。